

01-047

くるめサマー・トリートメント・プログラム (STP) 15 年の実践と効果

本田 由布子^{1,2)}、多田 泰裕¹⁾、岡村 尚昌^{1,3)}、向笠 章子^{1,4)}、山下 裕史朗^{1,5)}

NPO 法人くるめ STP¹⁾、
西南学院大学大学院 人間科学研究科²⁾、
久留米大学高次脳疾患研究所³⁾、
広島国際大学心理学部心理学科⁴⁾、
久留米大学小児科⁵⁾

【はじめに】我々は、米国で ADHD を持つ子どもと家族への「優良治療モデルプログラム」として米国心理学会などの受賞を受けたサマートリートメントプログラム (STP) を福岡県久留米市の小学校で過去 15 年に渡って実施してきた。Program 内容は、米国 STP とほぼ変わらないが、夏休みが短く、学校文化の異なるわが国の実情に合った STP の実現に向けて修正を重ねてきた。米国の STP を日本版にアレンジしたものが「くるめ STP」で、子どもたちの行動修正はもちろん、友だちやおとなとの人間関係、学習スキルやスポーツスキル改善を目標とするプログラムである

【方法】対象は、知的障害のない ADHD 小学生である。参加児は、夏休み期間中の 1～2 週間、日帰りデイキャンプ方式でグループメンバーとともに小学校の施設を利用して活動する。1 グループは 10～12 名で、さまざまな行動療法の適用は月～木曜日であり、日常生活に近い環境下での行動観察を行う。学習センターは現職の特別支援教育に関わる教師により運営されている。参加児たちは、教室で学習・行動課題に取り組み、エビデンスに基づく行動療法のいくつかの手法が適用される。学習センターでは個々の子どもの学力・学習技能の査定に基づき設定した「学習課題の完遂度、正答率」および「決まりを守りながら学習活動をする」という 2 点が評価の対象となる。また、学習センター以外のすべての活動においては、米国の行動療法専門家の指導を受けた医師、臨床心理士の監督のもと、臨床心理士・大学生スタッフによる行動療法が実践される。保護者は 5 日間のペアレントトレーニングを同時期に受ける。

【結果】15 年間のくるめ STP 参加者は 325 名であり、一人もドロップアウト者はいない。STP 期間中に、加点の増加、減点の減少、1 日平均獲得ポイントの増加など子どもたちの行動は大きく改善され、保護者・教師からの質問紙による評価についても有意な改善が認められる。子どもたちを直接指導するのは、トレーニングを受けた大学生で、STP は、参加したすべての医療・教育・心理スタッフ・学生の臨床教育の場になっている。STP には、子どもたちの通っている学校から担任はじめ多くの学校関係者が見学にみえる。STP を通じて子どもたちの通っている学校の関係者との連携も深まり各学校のレベルアップと地域連携の向上につながる。

【結論】STP は子どもの行動改善、家族支援、人材育成に有用である。